

11月・12月の管理ポイント

第153号 2018年11月01日発行

土壌が乾燥しやすい季節です。土壌の乾燥が長期間続くと撥水物質が増え、ドライ症状が発生してしまいます。冬場は代謝や生理反応が低下しているため、ダメージが見えにくく見逃されがちです。春になってダメージが目立つようになってから対処しても回復は困難ですので、冬場も水管理に気を配り続けましょう。

当社Webサイトにて
バックナンバー掲載中
<http://www.tomo-green.com/>



土壌水分環境を整えましょう

レボ (REVO)

冬場は降雨や灌水が減り土壌中の水分が少なくなりがちです。おまけに空気が乾燥しているため、土壌の乾燥が思っている以上に早く進んでしまいます。土壌が乾燥すると、土壌中にある撥水予備軍（濡れていると撥水しないが乾くと撥水が強くなる物質）が強い撥水を示すようになり、急激にドライが進んでしまいますので、冬場でも適度な土壌水分を保持し続けることが重要です。界面活性剤を処理することで適度な土壌水分を保持し続けやすくなります。特にレボは地際の水分を低めに、根圏の気相を十分にとりつつ、適度な水分を保持し続けることが出来ます。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



乾燥・過湿から
グリーンを守りましょう

プライマーセレクト

プライマーセレクト処理で、適度な水分を保持し、乾燥害からグリーンを守りましょう。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



芝生の耐乾性
耐寒性を高めましょう

リーフシールド

リーフシールドで茎葉部をコーティングすると、蒸散を抑制し、芝の乾燥を防ぐと共に葉面温度の低下を軽減出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

希釈倍率：200-400倍 散布水量：100~300ml/m²



寒くなる前に
貯蔵糖類を貯えましょう

グリーンメカ

生育期の11月は糖類の消費が激しくなります。十分に施肥しても、日照不足（曇りや雨の日、日陰になる部分）で光合成が十分に行われない場合、糖類の消費が追いつかなくなってしまいます。足りない消費分を補い、さらに冬の貯蔵分も十分に蓄える為、グリーンメカをたっぷり与え、糖類を十分に補給させましょう。貯蔵糖類を十分に蓄えた芝は、耐寒性耐凍性が向上し、来春の生育が良好になります。

使用量：2-10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²



自然な色調の着色剤

カラーメイト F-20

カラーメイトF-20は、従来品に比べ、季節感を重視した落ち着いた色調（ダークグリーン）に仕上がる着色剤です。物理性（固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc）や安全性にも優れています。お求めやすい価格なので、フェアウェイなど広範囲でもご使用いただけます。

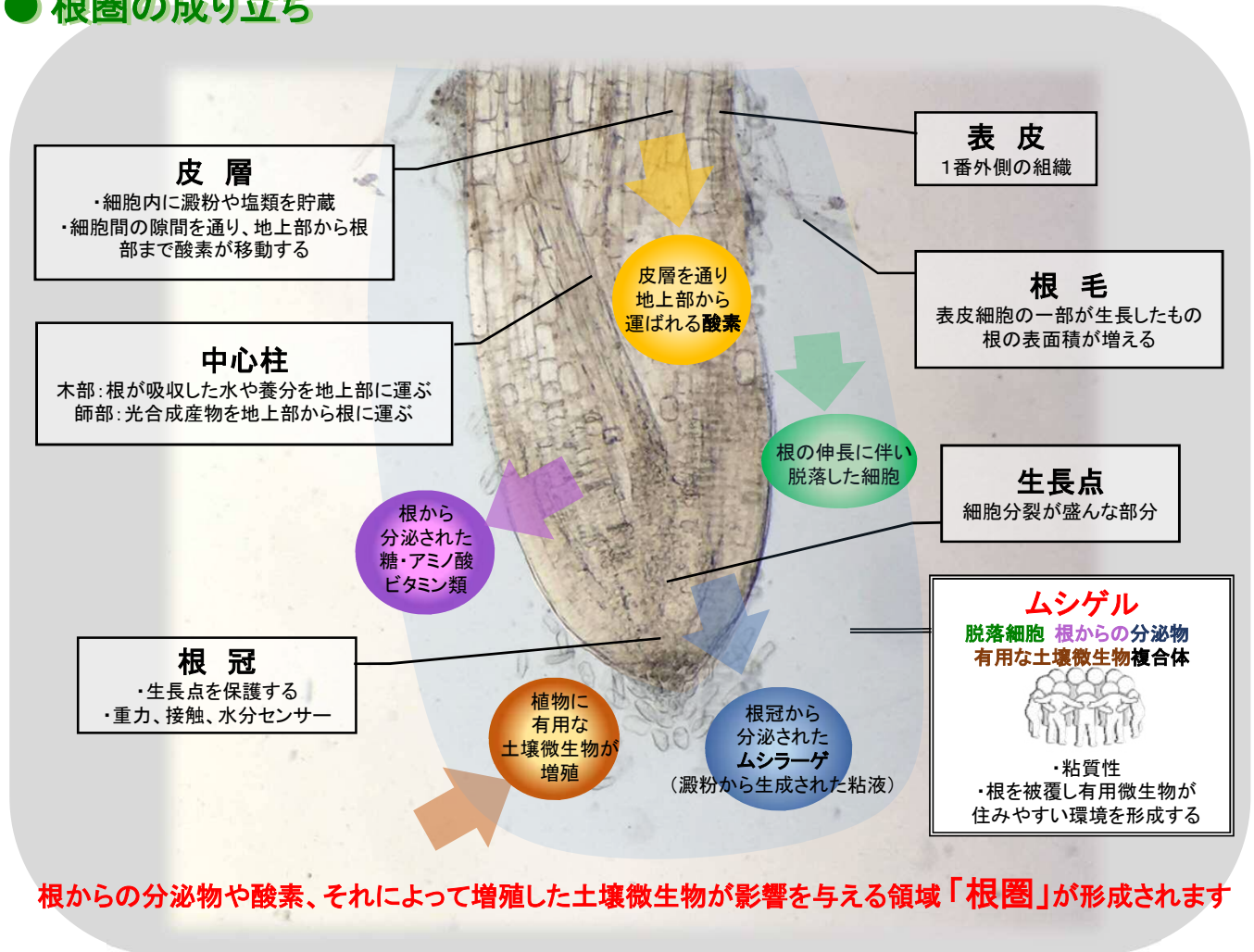
使用量：50~100倍 100~200ml/m²散布

植物が健全に生育するためには、健全な根圏土壤が重要と云われますが
根圏とは、土壤のどの部分に、どのように作られるのでしょうか？
また、健全な根圏土壤では何が起こるのでしょうか？

当社Webサイトにて
バックナンバー掲載中
<http://www.tomo-green.com/>

- **根圏とは？** 「根から影響を受ける土壤領域」のことです。
土壤水分や菌密度によって変わりますが、根表面から数mm程度の部分になります。

● **根圏の成り立ち**



● **非根圏土壤との違い 健全な根圏土壤で起こること**

- ・ ムシゲルが潤滑剤となり砂粒子から根を守り、伸長しやすくなります
- ・ ムシゲルが根の水分を保ちます
- ・ 有用微生物が増殖します (非根圏土壤の数十倍から数百倍の菌密度) etc...

根圏では植物と微生物は共生関係にあります

植物が得をすること

- ・ 微生物が生成した養分や生長促進物質などを得る
- ・ 土壤中の有機物が分解され、植物が吸収出来る状態になる
- ・ 病害抑制 (有用微生物が定住することで有害微生物の異常増殖が抑制される)
- ・ 全身抵抗性が誘導される



共生関係
Win-Win

微生物が得をすること

- ・ エサが豊富 (植物分泌物や脱落物など)
- ・ 住処になる
- ・ 増殖促進物質などを得る (植物により異なる)

